

## 国事

黒田インターナショナル

黒田 毅

国事に封ずるは男子の本懐である。至誠を得、真実において自己を求める。国民の視線から逃げることは許されない。これは国家が自己の基軸を有し、世界との対等性を行う正しい基盤なのである。言葉は真実においてその対話を国民と世界へ求め、その理念の共有や合意形成は、融和と協力における世界を可能とする。対立から融和への転換は、世界の全ての現実の解決を可能とするのである。政治家は必ずその志において自己を有するのである。

思いやりのない世界でなく、助け合いの世界は問題の解決を新しい現実の創造を行う。学術性の進歩はそれと共に、現実の構築を可能とするのである。

自己は必ず隷属でなく自立を旨とし、世界との対話を行う。

世界の全ての問題を自己とすることは、情報の収集と分析における正しい国家運営を求められる。

国民を反故として国家はあり得ない。国民という国家の財産は、未来へその希望を受け継がなくてはいけない。

世界の進歩性への追従から、自己の理念と理解という基盤における自国の建設を新たにすることはできるのである。

常に希望を抱き、未来へ進むことは、それを失わないことであり、自らの信念は、国家を与えることができるのである。

政治家はその信念において自己を問われる。その信念が国民へ未来を与えるのである。

初心忘るるべからず。思いは必ず通じるのである。

日本の国力は、独自外交を可能とする。これはアメリカやアジアの属する必要はないのである。これは独自外交における世界への参加や独自安全保障を行うことができるのである。占領からのその従属でない国策の制定は可能なのである。